

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2019-192530

(P2019-192530A)

(43) 公開日 令和1年10月31日(2019.10.31)

(51) Int.Cl.	F I	テーマコード (参考)
F 2 1 S 8/04 (2006.01)	F 2 1 S 8/04 1 0 0	3 K 2 4 3
F 2 1 S 2/00 (2016.01)	F 2 1 S 2/00 2 3 0	
F 2 1 Y 103/10 (2016.01)	F 2 1 Y 103:10	
F 2 1 Y 115/10 (2016.01)	F 2 1 Y 115:10	

審査請求 未請求 請求項の数 6 O L (全 11 頁)

(21) 出願番号	特願2018-85161 (P2018-85161)	(71) 出願人	505455945
(22) 出願日	平成30年4月26日 (2018. 4. 26)		コイズミ照明株式会社
		(74) 代理人	大阪府大阪市中央区備後町 3 丁目 3 番 7 号 100168583
			弁理士 前井 宏之
		(72) 発明者	富田 拓未
			大阪府大阪市中央区備後町 3 丁目 3 番 7 号 コイズミ照明株式会社内
		(72) 発明者	藤井 肇
			滋賀県東近江市大塚町 1 2 8 9 - 2 コイ ズミライティング株式会社内
		Fターム (参考)	3K243 MA01

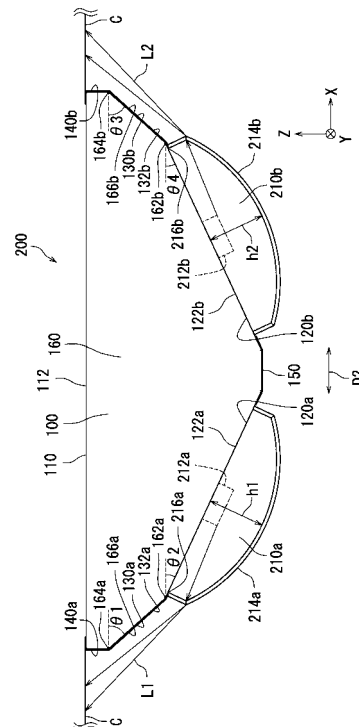
(54) 【発明の名称】 ベースユニットおよび照明器具

(57) 【要約】

【課題】設置面に対して光を効率良く照射することができるベースユニットを提供する。

【解決手段】ベースユニット100は、第1光源ユニット210aを取り付け可能である。ベースユニット100は、ベース部110と、第1配置部120aと、第1傾斜部130aとを備える。ベース部110は、ベース面112を有する。第1配置部120aは、第1規定面122aを有する。第1傾斜部130aは、第1傾斜面132aを有する。第1傾斜面132aは、第1規定面122aに対してベース面側に傾斜する。第1傾斜部130aは、第1配置部120aに接続する。第1規定面122aおよび第1傾斜面132aの各々は、ベース面112に対して傾斜している。ベース面112に対する第1傾斜面132aの角度 $\theta 1$ は、ベース面112に対する第1規定面122aの角度 $\theta 2$ よりも大きい。

【選択図】図2



【特許請求の範囲】**【請求項 1】**

第 1 光源ユニットを取り付け可能なベースユニットであって、
ベース面を有するベース部と、
前記第 1 光源ユニットの前記ベース面に対する角度を規定する第 1 規定面を有し、前記第 1 光源ユニットが配置される第 1 配置部と、
前記第 1 規定面に対して前記ベース面側に傾斜する第 1 傾斜面を有し、前記第 1 配置部に接続する第 1 傾斜部と
を備え、
前記第 1 規定面および前記第 1 傾斜面の各々は、前記ベース面に対して傾斜しており、
前記ベース面に対する前記第 1 傾斜面の角度は、前記ベース面に対する前記第 1 規定面の角度よりも大きい、ベースユニット。

10

【請求項 2】

前記第 1 傾斜面は平面である、請求項 1 に記載のベースユニット。

【請求項 3】

前記第 1 傾斜面は湾曲している、請求項 1 に記載のベースユニット。

【請求項 4】

前記ベースユニットに取り付け可能な第 2 光源ユニットの前記ベース面に対する角度を規定する第 2 規定面を有し、前記第 2 光源ユニットが配置される第 2 配置部と、
前記第 2 規定面に対して前記ベース面側に傾斜する第 2 傾斜面を有し、前記第 2 配置部に接続する第 2 傾斜部と
をさらに備え、

20

前記第 2 規定面および前記第 2 傾斜面の各々は、前記ベース面に対して傾斜しており、
前記ベース面に対する前記第 2 傾斜面の角度は、前記ベース面に対する前記第 2 規定面の角度よりも大きく、
前記第 2 規定面は、前記第 1 規定面に対して前記ベース面側に傾斜している、請求項 1 から請求項 3 のいずれか 1 項に記載のベースユニット。

【請求項 5】

請求項 1 から請求項 4 のいずれか 1 項に記載のベースユニットと、
前記第 1 光源ユニットと
を備える、照明器具。

30

【請求項 6】

前記第 1 光源ユニットの端縁は、前記第 1 規定面と前記第 1 傾斜面との境界に位置する、請求項 5 に記載の照明器具。

【発明の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

本発明は、ベースユニットおよび照明器具に関する。

【背景技術】**【0002】**

特許文献 1 に記載された照明器具は、器具本体と、器具本体に着脱可能な光源ユニットとを備える。器具本体は天井面に取り付けられる。光源ユニットは、天井面に取り付けられた後の本体ユニットに取り付けられる。

40

【先行技術文献】**【特許文献】****【0003】**

【特許文献 1】特開 2014 - 78422 号公報

【発明の概要】**【発明が解決しようとする課題】****【0004】**

50

しかしながら、特許文献 1 に記載された照明器具では、光源ユニットから設置面（例えば、天井面）に向かう光のほとんどが傾斜面によって遮られる。したがって、設置面に対して光を効率良く照射することができない。

【0005】

本発明は上記課題に鑑みてなされたものであり、その目的は設置面に対して光を効率良く照射することができるベースユニットおよび照明器具を提供することにある。

【課題を解決するための手段】

【0006】

本願に開示するベースユニットは、第 1 光源ユニットを取り付け可能である。前記ベースユニットは、ベース部と、第 1 配置部と、第 1 傾斜部とを備える。前記ベース部は、ベース面を有する。前記第 1 配置部は、第 1 規定面を有する。前記第 1 規定面は、前記第 1 光源ユニットの前記ベース面に対する角度を規定する。前記第 1 配置部は、前記第 1 光源ユニットが配置される。前記第 1 傾斜部は、第 1 傾斜面を有する。前記第 1 傾斜面は、前記第 1 規定面に対して前記ベース面側に傾斜する。前記第 1 傾斜部は、前記第 1 配置部に接続する。前記第 1 規定面および前記第 1 傾斜面の各々は、前記ベース面に対して傾斜している。前記ベース面に対する前記第 1 傾斜面の角度は、前記ベース面に対する前記第 1 規定面の角度よりも大きい。

【0007】

本願に開示するベースユニットにおいて、前記第 1 傾斜面は平面であることが好ましい。

【0008】

本願に開示するベースユニットにおいて、前記第 1 傾斜面は湾曲していることが好ましい。

【0009】

本願に開示するベースユニットにおいて、前記ベースユニットは、第 2 配置部と、第 2 傾斜部とをさらに備えることが好ましい。前記第 2 配置部は、第 2 規定面を有することが好ましい。第 2 規定面は、前記ベースユニットに取り付け可能な第 2 光源ユニットの前記ベース面に対する角度を規定することが好ましい。前記第 2 配置部は、前記第 2 光源ユニットが配置されることが好ましい。前記第 2 傾斜部は、第 2 傾斜面を有することが好ましい。前記第 2 傾斜面は、前記第 2 規定面に対して前記ベース面側に傾斜することが好ましい。前記第 2 傾斜部は、前記第 2 配置部に接続することが好ましい。前記第 2 規定面および前記第 2 傾斜面の各々は、前記ベース面に対して傾斜していることが好ましい。前記ベース面に対する前記第 2 傾斜面の角度は、前記ベース面に対する前記第 2 規定面の角度よりも大きいことが好ましい。前記第 2 規定面は、前記第 1 規定面に対して前記ベース面側に傾斜していることが好ましい。

【0010】

本願に開示する照明器具は、上記に記載のベースユニットと、前記第 1 光源ユニットとを備える。

【0011】

本願に開示する照明器具において、前記第 1 光源ユニットの端縁は、前記第 1 規定面と前記第 1 傾斜面との境界に位置することが好ましい。

【発明の効果】

【0012】

本発明に係るベースユニットによれば、設置面に対して光を効率良く照射することができる。

【図面の簡単な説明】

【0013】

【図 1】本発明の実施形態に係る照明器具を示す斜視図である。

【図 2】本発明の実施形態に係る照明器具の側面図である。

【図 3】本発明の実施形態に係る照明器具の側面図である。

【図４】本発明の実施形態に係る照明器具の側面図である。

【図５】本発明の実施形態に係る照明器具の側面図である。

【図６】本発明の実施形態に係る照明器具の側面図である。

【発明を実施するための形態】

【００１４】

以下、本発明の実施形態について、図面を参照しながら説明する。なお、図中、同一または相当部分については同一の参照符号を付して説明を繰り返さない。本発明の実施形態において、 X 軸、 Y 軸、および Z 軸は互いに直交し、 X 軸および Y 軸は水平面に平行であり、 Z 軸は鉛直線に平行である。

【００１５】

10

図１を参照して、本発明の実施形態に係る照明器具２００について説明する。図１は、本発明の実施形態に係る照明器具２００を示す斜視図である。図１において、長手方向 $D1$ は、ベースユニット１００、第１光源ユニット２１０ a および第２光源ユニット２１０ b の長手方向を示す。長手方向 $D1$ は、 Y 軸に沿った方向である。図１において、幅方向 $D2$ は、長手方向 $D1$ に直交する方向を示す。幅方向 $D2$ は、 X 軸に沿った方向である。

【００１６】

図１に示すように、照明器具２００は、例えば、ベースライトである。照明器具２００は、ベースユニット１００と、第１光源ユニット２１０ a と、第２光源ユニット２１０ b とを備える。ベースユニット１００と、第１光源ユニット２１０ a と、第２光源ユニット２１０ b とは長手形状を有する。

20

【００１７】

ベースユニット１００は、建造物等における設置面に取り付けられる。本実施形態では、設置面は建造物における部屋の天井面である。ベースユニット１００は、第１光源ユニット２１０ a と、第２光源ユニット２１０ b とを取り付け可能である。ベースユニット１００は、第１光源ユニット２１０ a および第２光源ユニット２１０ b を保持する。

【００１８】

第１光源ユニット２１０ a と第２光源ユニット２１０ b との各々は光を出射する。

【００１９】

図１および図２を参照して、本発明の実施形態に係る照明器具２００についてさらに説明する。図２は、本発明の実施形態に係る照明器具２００の側面図である。図２において、角度 $\theta1$ は、ベース面１１２に対する第１傾斜面１３２ a の角度を示す。角度 $\theta2$ は、ベース面１１２に対する第１規定面１２２ a の角度を示す。角度 $\theta3$ は、ベース面１１２に対する第２傾斜面１３２ b の角度を示す。角度 $\theta4$ は、ベース面１１２に対する第２規定面１２２ b の角度を示す。光 $L1$ は、第１光源ユニット２１０ a から出射された光のうちの一部の光を示す。光 $L2$ は、第２光源ユニット２１０ b から出射された光のうちの一部の光を示す。

30

【００２０】

図１および図２に示すように、ベースユニット１００は、ベース部１１０と、第１配置部１２０ a と、第１傾斜部１３０ a と、第１接続部１４０ a と、第２配置部１２０ b と、第２傾斜部１３０ b と、第２接続部１４０ b と、第３接続部１５０と、一对の端部１６０とを備える。ベースユニット１００は、例えば金属製である。

40

【００２１】

ベース部１１０は、ベース面１１２を有する。ベース面１１２は、例えば、平面である。照明器具２００が天井面 C に取り付けられた場合、ベース面１１２は天井面 C と対向し当接する。天井面 C は、設置面の一例である。

【００２２】

第１配置部１２０ a には、第１光源ユニット２１０ a が配置される。第１配置部１２０ a は、第１規定面１２２ a を有する。第１規定面１２２ a は、例えば、平面である。第１規定面１２２ a は、ベース面１１２に対して傾斜する。第１規定面１２２ a は角度 $\theta2$ を規定する。角度 $\theta2$ は、第１光源ユニット２１０ a のベース面１１２に対する角度である

50

。角度 $\theta 2$ は鋭角である。本実施形態では、角度 $\theta 2$ は25度である。第1規定面122aによって、第1光源ユニット210aは、ベース面112に対して角度 $\theta 2$ 傾いた状態で取り付けられる。

【0023】

第1傾斜部130aは、第1配置部120aに接続している。第1傾斜部130aは、第1傾斜面132aを有する。第1傾斜面132aは、本実施形態では、平面である。第1傾斜面132aは、第1規定面122aに対してベース面112側に傾斜する。第1傾斜面132aは、ベース面112に対して角度 $\theta 1$ だけ傾斜する。角度 $\theta 1$ は、ベース面112に対する第1傾斜面132aの傾斜角である。角度 $\theta 1$ は、例えば、ベース面112に対する面166aの傾斜角である。面166aは、第1傾斜面132aの基端162aと、第1傾斜面132aの先端164aとによって規定される面である。本実施形態では、第1傾斜面132aと、面166aとは重なっている。角度 $\theta 1$ は、鋭角である。本実施形態では、角度 $\theta 1$ は50度である。第1傾斜面132aは、第1光源ユニット210aが出射した光L1を効率良く反射するために、白色塗装などの反射加工が施されていることが好ましい。

10

【0024】

第1接続部140aは、ベース部110から垂直に延びている。第1接続部140aは、第1傾斜部130aに接続している。

【0025】

第1光源ユニット210aは、第1光源212aと、第1カバー部材214aとを有する。第1光源ユニット210aは、第1光源ユニット210aの端縁216aが、第1規定面122aと第1傾斜面132aとの境界に位置するように配置される。端縁216aは、第1傾斜面132aに沿って延びている。

20

【0026】

第1光源212aは、複数のLED(Light Emitting Diode)を含む。複数のLEDは、長手方向D1(Y軸方向)に沿って直線状に配列されている。

【0027】

第1カバー部材214aは、長手方向D1(Y軸方向)に沿って延びている。第1カバー部材214aは、第1光源212aを覆う。第1カバー部材214aは、第1光源212aが出射した光L1を拡散する。第1カバー部材214aは、例えば、合成樹脂(例えば、ポリカーボネート)を押出成形することによって形成される。第1カバー部材214aの色彩は、例えば、白色の半透明である。第1カバー部材214aは、例えば、セードである。第1カバー部材214aの下面は湾曲している。第1カバー部材214aの高さh1は、例えば、27mmである。第1カバー部材214aの高さh1が十分に高いと、天井面Cに向けて効率よく光が照射される。また、第1カバー部材214aの高さh1が高いと、第1光源212aが透けて見えることを抑制することができる。第1カバー部材214aは、白色半透明の他、光拡散材料を含有した樹脂で成形したり、透明材料で成形した後に表面に光拡散処理を施したりしてもよい。

30

【0028】

第2配置部120bには、第2光源ユニット210bが配置される。第2配置部120bは、第2規定面122bを有する。第2規定面122bは、例えば、平面である。第2規定面122bは、ベース面112に対して傾斜する。第2規定面122bは角度 $\theta 4$ を規定する。角度 $\theta 4$ は、第2光源ユニット210bのベース面112に対する角度である。角度 $\theta 4$ は鋭角である。本実施形態では、角度 $\theta 4$ は25度である。第2規定面122bによって、第2光源ユニット210bは、ベース面112に対して角度 $\theta 4$ 傾いた状態で取り付けられる。また、第2規定面122bは、第1規定面122aに対してベース面側に傾斜している。

40

【0029】

第2傾斜部130bは、第2配置部120bに接続している。第2傾斜部130bは、第2傾斜面132bを有する。第2傾斜面132bは、本実施形態では、平面である。第

50

第2傾斜面132bは、第2規定面122bに対してベース面112側に傾斜する。第2傾斜面132bは、ベース面112に対して角度 θ_3 だけ傾斜する。角度 θ_3 は、ベース面112に対する第2傾斜面132bの傾斜角である。角度 θ_3 は、例えば、ベース面112に対する面166bの傾斜角である。面166bは、第2傾斜面132bの基端162bと、第2傾斜面132bの先端164bとによって規定される面である。本実施形態では、第2傾斜面132bと、面166bとは重なっている。角度 θ_3 は、鋭角である。本実施形態では、角度 θ_3 は50度である。第2傾斜面132bは、第2光源ユニット210bが出射した光L2を効率良く反射するために、白色塗装などの反射加工が施されていることが好ましい。

【0030】

10

第2接続部140bは、ベース部110から垂直に延びている。第2接続部140bは、第2傾斜部130bに接続している。

【0031】

第2光源ユニット210bは、第2光源212bと、第2カバー部材214bとを有する。第2光源212bは、第1光源212aと同様の構成であるため説明を省略する。また、第2カバー部材214bは、第1カバー部材214aと同様の構成であるため説明を省略する。

【0032】

第3接続部150は、第1配置部120aと第2配置部120bとを接続する。

【0033】

20

一对の端部160は、ベースユニット100の長手方向D1における両端部(図1参照)に設けられる。

【0034】

ベース面112に対する第1傾斜面132aの角度 θ_1 は、ベース面112に対する第1規定面122aの角度 θ_2 よりも大きい。したがって、第1光源ユニット210aから出射して天井面Cに向かう光がベースユニット100によって遮られることを抑制することができる。その結果、天井面Cに対しても光を効率良く照射することができる。さらに、第1傾斜面132aを有しない場合と比べて、ベースユニット100の幅方向D2の寸法を小さくすることができる。また、第1傾斜面132aを有しない場合と比べて、ベースユニット100の折り曲げ部分を増やすことができる。したがって、ベースユニット100の強度を向上させることができる。ベースユニット100の強度を向上させることによって、ベースユニット100の運搬時に加わる衝撃や振動で、ベースユニット100が容易に変形してしまうことを抑制できる。また、ベースユニット100の強度を向上させることによって、照明器具200を天井面Cに設置した状態で、ベースユニット100が、第1光源ユニット210aおよび第2光源ユニット210bの重さで、長手方向の中央付近が下方向に向かって湾曲変形することを抑制できる。

30

【0035】

また、同様に、ベース面112に対する第2傾斜面132bの角度 θ_3 は、ベース面112に対する第2規定面122bの角度 θ_4 よりも大きい。したがって、第2光源ユニット210bから出射して天井面Cに向かう光がベースユニット100によって遮られることを抑制することができる。その結果、天井面Cに対しても光を効率良く照射することができる。さらに、第2傾斜面132bを有しない場合と比べて、ベースユニット100の幅方向D2の寸法を小さくすることができる。また、第2傾斜面132bを有しない場合と比べて、ベースユニット100の折り曲げ部分を増やすことができる。したがって、ベースユニット100の強度を向上させることができる。ベースユニット100の強度を向上させることによって、ベースユニット100の運搬時に加わる衝撃や振動で、ベースユニット100が容易に変形してしまうことを抑制できる。また、ベースユニット100の強度を向上させることによって、照明器具200を天井面Cに設置した状態で、ベースユニット100が、第1光源ユニット210aおよび第2光源ユニット210bの重さで、長手方向の中央付近が下方向に向かって湾曲変形することを抑制できる。

40

50

【0036】

図1および図2を参照して説明した照明器具200では、第1傾斜面132aおよび第2傾斜面132bは平面であったが、第1傾斜面132aおよび第2傾斜面132bは、湾曲していてもよい。

【0037】

図3を参照して本発明の実施形態に係る照明器具200について説明する。図3は、本発明の実施形態に係る照明器具200の側面図である。第1傾斜面132aおよび第2傾斜面132bが湾曲している点を除いて、図3に示す照明器具200は図2に示す照明器具200と同様な構成を有するため、重複部分については説明を省略する。

【0038】

図3に示すように、第1傾斜面132aおよび第2傾斜面132bは、湾曲している。詳しくは、第1傾斜面132aおよび第2傾斜面132bは、ベース面112に向かって凹状に湾曲している。第1傾斜面132aおよび第2傾斜面132bを凹状に湾曲させることによって、第1傾斜面132aおよび第2傾斜面132bの一部に影ができやすく、影になった部分が目立たなくなる。したがって、ベースユニット100の外観を細く(X軸方向の寸法を小さく)見せることができる。なお、第1傾斜面132aおよび第2傾斜面132bは、光を遮らない範囲で凸状に湾曲していてもよい。

【0039】

ベース面112に対する第1傾斜面132aの角度 θ_1 は、ベース面112に対する第1規定面122aの角度 θ_2 よりも大きい。角度 θ_1 は、例えば、ベース面112に対する面166aの傾斜角である。面166aは、第1傾斜面132aの基端162aと、第1傾斜面132aの先端164aとによって規定される面である。本実施形態では、第1傾斜面132aと、面166aとは重なっていない。したがって、第1光源ユニット210aから出射して天井面Cに向かう光L1がベースユニット100によって遮られることを抑制することができる。その結果、天井面Cに対しても光L1を効率良く照射することができる。

【0040】

同様に、ベース面112に対する第2傾斜面132bの角度 θ_3 は、ベース面112に対する第2規定面122bの角度 θ_4 よりも大きい。角度 θ_3 は、例えば、ベース面112に対する面166bの傾斜角である。面166bは、第2傾斜面132bの基端162bと、第2傾斜面132bの先端164bとによって規定される面である。本実施形態では、第2傾斜面132bと、面166bとは重なっていない。したがって、第2光源ユニット210bから出射して天井面Cに向かう光L2がベースユニット100によって遮られることを抑制することができる。その結果、天井面Cに対しても光L2を効率良く照射することができる。

【0041】

図1および図2を参照して説明した照明器具200では、ベースユニット100は、第1接続部140aと第2接続部140bとを備えていたが、ベースユニット100は、第1接続部140aと第2接続部140bとを備えていなくてもよい。

【0042】

図4を参照して本発明の実施形態に係る照明器具200について説明する。図4は、本発明の実施形態に係る照明器具200の側面図である。第1接続部140aと第2接続部140bとを備えていない点を除いて、図4に示す照明器具200は図2に示す照明器具200と同様な構成を有するため、重複部分については説明を省略する。

【0043】

図4に示すように、本実施形態では、第1傾斜部130aは、ベース部110と接続している。すなわち、ベースユニット100は、第1接続部140aを備えない。したがって、角度 θ_1 を大きくすることができる。その結果、第1光源ユニット210aから出射して天井面Cに向かう光L1がベースユニット100によって遮られることを抑制することができる。その結果、天井面Cに対しても光L1を効率良く照射することができる。

10

20

30

40

50

【0044】

同様に、本実施形態では、第2傾斜部130bは、ベース部110と接続している。すなわち、ベースユニット100は、第2接続部140bを備えない。したがって、角度 θ_3 を大きくすることができる。その結果、第2光源ユニット210bから出射して天井面Cに向かう光L2がベースユニット100によって遮られることを抑制することができる。その結果、天井面Cに対しても光L2を効率良く照射することができる。

【0045】

図1および図2を参照して説明した照明器具200では、第1光源ユニット210aは、第1光源ユニット210aの端縁216aが、第1規定面122aと第1傾斜面132aとの境界に位置するように配置されていたが、第1光源ユニット210aは、第1光源ユニット210aの端縁216aが、第1規定面122aと第1傾斜面132aとの境界から離れた位置に位置するように配置されてもよい。

10

【0046】

図5を参照して本発明の実施形態に係る照明器具200について説明する。図5は、本発明の実施形態に係る照明器具200の側面図である。第1光源ユニット210aの端縁216aが、第1規定面122aと第1傾斜面132aとの境界から離れた位置に位置するように、第1光源ユニット210aが配置されている点を除いて、図5に示す照明器具200は図2に示す照明器具200と同様な構成を有するため、重複部分については説明を省略する。

【0047】

20

図5に示すように、第1光源ユニット210aは、第1光源ユニット210aの端縁216aが、第1規定面122aと第1傾斜面132aとの境界から離れた位置に位置するように配置される。同様に、第2光源ユニット210bは、第2光源ユニット210bの端縁216bが、第2規定面122bと第2傾斜面132bとの境界から離れた位置に位置するように配置される。

【0048】

図1および図2を参照して説明した照明器具200は、2つの光源ユニット（第1光源ユニット210aおよび第2光源ユニット210b）を備えていたが、照明器具200は、1つの光源ユニットを備えていてもよい。

【0049】

30

図6を参照して本発明の実施形態に係る照明器具200について説明する。図6は、本発明の実施形態に係る照明器具200の側面図である。照明器具200が1つの光源ユニットを備える点を除いて、図6に示す照明器具200は図2に示す照明器具200と同様な構成を有するため、重複部分については説明を省略する。

【0050】

図6に示すように、照明器具200は、光源ユニット（第1光源ユニット210a）を1つ備える。照明器具200は、一方の方向に光を出射する場合に好適に用いられる。例えば、照明器具200は、第2接続部140bを壁面に当接させて照明器具200を壁面に固定することで、壁直付け灯（ブラケットライト）として使用することができる。あるいは、例えば、ベース面112を天井面Cに当接させ、第2接続部140bを壁面に当接させて固定することで、照明器具200を天井面Cと壁面の境界部分に固定することができる。

40

【0051】

以上、図面（図1～図6）を参照しながら本発明の実施形態を説明した。但し、本発明は、上記の実施形態に限られるものではなく、その要旨を逸脱しない範囲で種々の態様において実施することが可能である（例えば、下記に示す（1）～（2））。図面は、理解しやすくするために、それぞれの構成要素を主体に模式的に示しており、図示された各構成要素の厚み、長さ、個数等は、図面作成の都合上から実際とは異なる。また、上記の実施形態で示す各構成要素の材質や形状、寸法等は一例であって、特に限定されるものではなく、本発明の効果から実質的に逸脱しない範囲で種々の変更が可能である。

50

【 0 0 5 2 】

(1) 図 1 ~ 図 6 を参照して説明したように、ベースユニット 1 0 0 は、片側に 1 つの傾斜部を備えていたが、本発明はこれに限定されない。ベースユニット 1 0 0 は、片側に複数の傾斜部を備えていてもよい。例えば、第 1 傾斜部 1 3 0 a または第 2 傾斜部 1 3 0 b に接続する傾斜部をさらに備えていてもよい。

【 0 0 5 3 】

(2) 図 1 ~ 図 6 を参照して説明したように、照明器具 2 0 0 は、光源ユニットを 1 つ、または 2 つ備えていたが、本発明はこれに限定されない。照明器具 2 0 0 は、光源ユニットを 3 つ以上備えていてもよい。例えば、照明器具 2 0 0 が光源ユニットを 3 つ備える場合、第 1 配置部 1 2 0 a および第 2 配置部 1 2 0 b に加えて、さらに、第 3 接続部 1 5

10

【 符号の説明 】

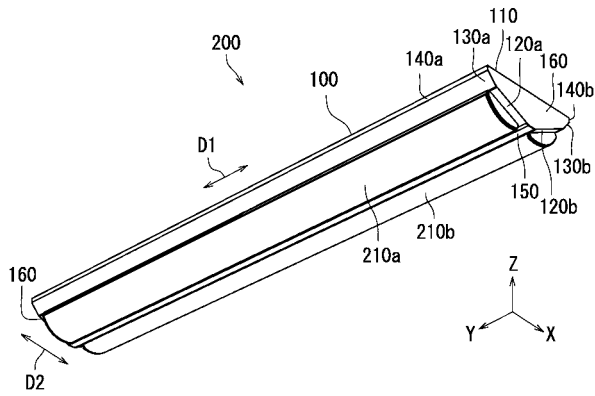
【 0 0 5 4 】

1 0 0 ベースユニット
 1 1 0 ベース部
 1 1 2 ベース面
 1 2 0 a 第 1 配置部
 1 2 0 b 第 2 配置部
 1 2 2 a 第 1 規定面
 1 2 2 b 第 2 規定面
 1 3 0 a 第 1 傾斜部
 1 3 0 b 第 2 傾斜部
 1 3 2 a 第 1 傾斜面
 1 3 2 b 第 2 傾斜面
 2 0 0 照明器具
 2 1 0 a 第 1 光源ユニット
 2 1 0 b 第 2 光源ユニット
 2 1 6 a 端縁
 2 1 6 b 端縁
 C 天井面
 $\theta 1$ 、 $\theta 2$ 、 $\theta 3$ 、 $\theta 4$ 角度

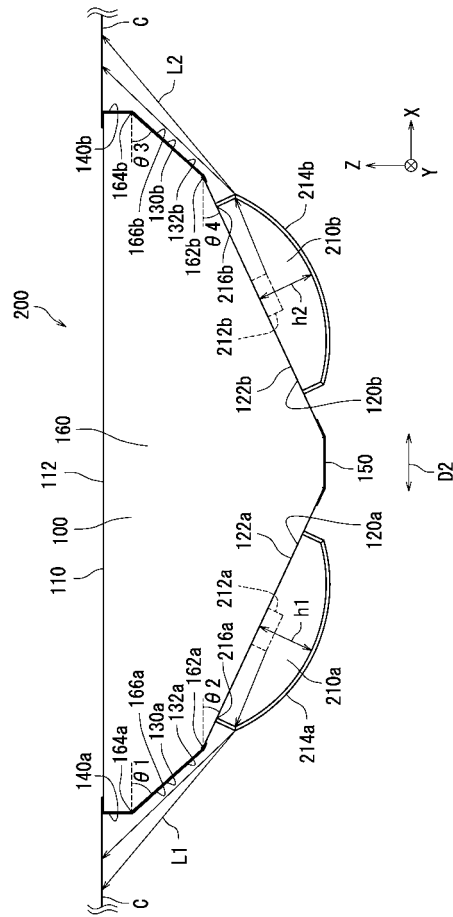
20

30

【図 1】



【図 5】



【図 6】

